

⑨ 戸塚西公園でのワークショップ

1 公園ワークショップが始まる！

戸塚西公園の整備計画や事業日程の概要を初めて周辺住民に周知したのは平成六年六月で、その後基盤整備を進め、ようやく本格的な上物整備を行う段階となった。整備にあたり、周辺住民の要望をより多くとりあげる目的でワークショップを実施することになり、七年十月初め、ワークショップ開催と第一回を十一月十一日公園見学会として実施すること、参加者の公募を町内会回覧で知らせた。

当日は、計画概要説明の後、公園用地内のパークウオッチングと、最も広く見晴らしの良い広場で車座になり、感想や提案など意見交換を行った。参加者は、子供も含め約四十人、半数は老人クラブ会員で、「ゲートボール場二面以上」などが要望された。その他、デイキャンプ場、ログハウス、自然林保全、周辺の緑・農地の保全などの要望が出された。

2 地域住民同士で話し合い解決

最も広いA広場については、老人クラブからゲートボール場が二、三面欲しいと提案されたが、子供をもつ母親や父親からはサッカーや草野球、たこ揚げ等に使用したいという要望

が出され、その調整が課題となった。第二回のワークショップ（十二月九日）では、老人クラブからゲートボール専用利用でなく、他の軽スポーツやイベント等の利用を優先する届け出方式にしたい旨の提案があり、多目的な広場にしようという合意がなされた。

現場事務所で行われた第二回では、二グループに分かれて再度現地調査や意見のポストイット出しが行われ、子供からはアスレチックやローラー滑り台、バスケットコート等が、大人からはデイキャンプ場、ログハウス、トンボ池、富士塚や雑木林の保全等が出された。これらの意見を踏まえ、第三回（一月二十七日）には、①森や地形などを大事に②自然に親しむ活動を中心に③運営も市民参加型で、の三つを基本方針にした「たたき台プラン」が提示され、さらに詳細な検討がされた。

3 デイキャンプ場提案とその取扱い

竹林や雑木林に囲まれ、自然とのふれあいや野外レクリエーションを楽しめる公園としての構想が徐々に固まっていった。当初から提案のあったデイキャンプ場は自然林に囲まれた広場ゾーンBに常設でなく配置し、必要な備品を収納しておく備品庫をトイレと併設

で作る等、詳細は話し合いの中で詰められていった。しかし、こうした提案の実現までには管理上の問題等をクリアする必要がある、第三回ワークショップの中で、「公園部としては、管理人不在の公園でのデイキャンプ場の設置は認めないが、年度末までに可能性について検討する」ということになった。

デイキャンプに関する公式見解は、最終回（三月二十三日）のワークショップで明らかにされた。管理人のいる総合公園等にキャンプ場が設置される場合はデイキャンプ利用を許可するが、管理人のいない地区・近隣公園では地元でデイキャンプ利用を管理運営する体制ができれば許可するということであった。つまり、公園内で地元の人が火を使う行為ができればよいということなので、組織体制と条件整備が必要ということである。広場Bに最低限水栓を三つ設けるので、デイキャンプをテーマとしたイベントを現地で数回行い、火を使うイベントが安全にできる仕組みを模索して欲しいというものであった。

当初、平成八年度にはすべての工事を完了する予定であったが、デイキャンプ利用を試行する広場ゾーンBについては平成九年度まで延長することが検討されている。

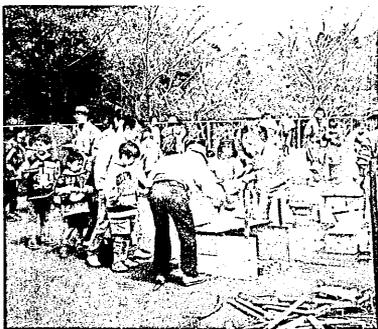
データ

| | |
|------|--------------|
| 事業主体 | 緑政局公園部建設課 |
| 関係部局 | 戸塚区役所区政推進課 |
| 所在地 | 戸塚区深谷町984-1他 |
| 公園面積 | 約3.7ha |
| 公園種別 | 地区公園 |
| 事業期間 | 平成7～9年度 |

第1回ワークショップ
広場ゾーンでの意見交換



竹の子まつり 竹の子を使った焼きそばと豚汁は大好評



4 運営体制も模索する「竹の子まつり」の実施

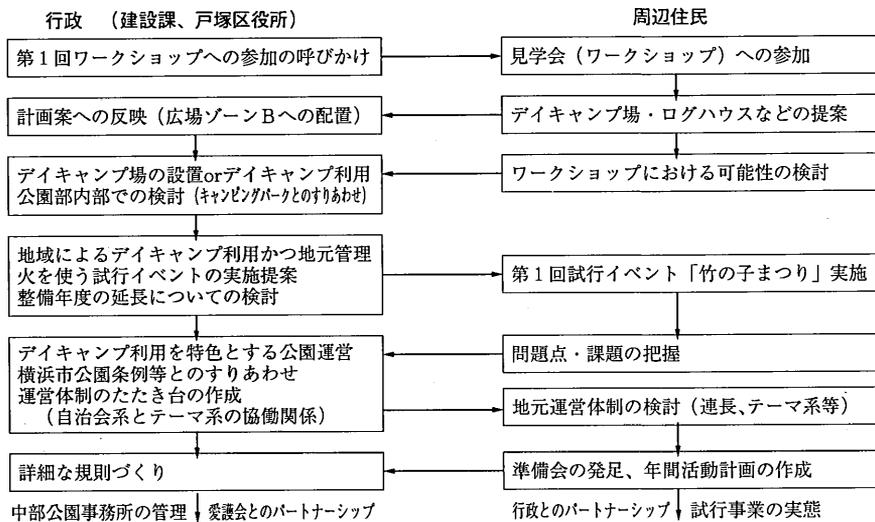
そうこうするうちにワークショップ参加者の中から、「竹の子ほり」とあわせてデイキャンプ実験事業をやるという話が持ち上がり、四月六日、有志が集まった。とりあえず参加できそうな人を集めて、竹の子ほりと竹の子料理を食べるイベント「竹の子まつり」を行うことと、プログラム概要や役割分担が決められ、区役所や建設課との調整により①戸塚西公園ワークショップの会主催で行う②新地元の工務店に協力してもらう③竹の子ほりや野草料理を手伝ってくれる人への協力依頼④ピラづくりと自治会町内会・子供会・学校などへの配布依頼⑤鍋・釜・調理器具の調達等が参加メンバーで分担された。

当日（四月二十一日）は、前夜までのぐずついた天気もあがって、比較的風のある快晴。事前の心配をよそに、二百五十名を越す地域住民（深谷町、俣野町、ドリムハイツなど）が集まり、八十本を越す竹の子ほり、かまど作り、竹の子入りの焼きそば・豚汁作り、竹の子・野草の天ぷら揚げなどを楽しみ、大盛況のうちに終了。アンケートも五十通程回収でき、公園や広場の名称提案、企画・実施への参加意欲のある人の存在等と、広場ゾーンBでのデイキャンプを行う際の問題点や課題が把握でき、運営体制づくりも模索された。

5 一本格的なパートナーシップ段階へ

今後もデイキャンプイベントを試行する中

図一 1 パートナーの実現まで



で、誰もが気楽に緑に親しめる公園づくりを基本に、戸塚区の生涯学習講座「みどりの学校」やドリムハイツの「長期ビジョン」等と連携を図りながら、公園の特色を發揮できる運営体制づくりを進めていく必要がある。特に、ワークショップの中で培われた地元住民との協働的な関係は、デイキャンプ利用という特色を媒介に徐々に形成されてきており、デイキャンプ実験事業や運営体制づくりに向けた条件整備等を行う中でより本格的なパートナーシップ段階を迎えようとしている。

図一 2 第2回ワークショップでの意見

